

都市民俗生活誌の可能性

内田忠賢

The Proposal of Folk-Lifography on Urban Society

はじめに

- ①都市民俗生活誌
- ②民俗学にとって都市とは
- ③都市民俗生活誌の可能性
- ④問題点と課題

【解説】

論では、都市生活の具体相を眺めながら、都市人の様々な心性を探る試みの前提を論じた。

村落の民俗誌について、膨大な数の報告があり、多くの議論がなされてきた。しかし、都市の民俗誌については、課題が多い。民俗学における都市の定義さえ不明なままである。また、都市民俗では、現代的側面、動態的側面を無視できない。従来の民俗的な調査では十分対応できない。その意味でも、これまでの民俗誌とは異なる視点から対応する必要がある。新たに調査項目を設定する前に、「都市生活をまる」と描いた作品（モノグラフ）を確認・検討する必要がある。小論では、これらの資料群を「都市民俗生活誌」と呼ぶ。都市民俗生活誌は全国各地で編まれ、発行されているものの、その全体像は不明である。そこで、全国規模で都市民俗生活誌資料の確認と収集、検討を始めた。この作業のプロセス、およびフィールドワークの中で、都市や都市性を再考する必要を感じた。そこで、民俗学にとっての都市や都市性について再確認をする。そして、都市民俗生活誌のセールスポイントについての私見を述べる。小